

\*\*\*\*\*  
 静岡市とフランス・カンヌ市は、2021年に姉妹都市提携30周年をむかえます。両都市のさらなる交流の拡大・発展に向けて、国際交流関係団体がカンヌ市で主体的に実施する交流事業を支援しています。今年度は、静岡日仏協会主催「平成30年度カンヌお茶まつりにおける静岡茶の紹介及び市民交流」の経費の一部を助成しました。静岡日仏協会よりお茶まつりの報告が届きました。  
 \*\*\*\*\*



2018年9月、カンヌ市に滞在しました。今回の訪問の目的の一つは私の運営するフランス語学校『エスパス・エクラタン』で恒例になっている、『カンヌ・インターナショナル・カレッジ』での1週間のフランス語研修です。紺碧の美しい地中海沿いに位置するカレッジ内には宿泊施設や食堂もあり、安全に快適に語学研修、そして南仏ライフを送ることができました。二つ目は『お茶まつり』への参加とカンヌ市の隣町ル・カネの日本料理店『レストラン柏』で行った日本料理と静岡の産物を使ったデザートとのコラボイベント、隣町ヴァロリスの日本漫画フェスティバル『ジャパノレア』での静岡茶を使ったお菓子の紹介です。その中でも『お茶まつり』についてご報告します。

今年度は日仏交流160周年として、フランス各地で日本を紹介する展示会やイベントなどが開催されています。カンヌ市旧市街（スーケ）の丘の頂上にあるカストル美術館では、日本の伝統芸術を紹介する企画展が4ヶ月間に渡って開催されており、その期間中に、カンヌ日仏協会が9月16日（日）に『お茶まつり』を開催しました。静岡からは「宙庵」というポータブル茶室を作りカンヌ市に寄贈される荻須豊さんと、有機茶栽培農家の戸崎雅章さんと奥様、製菓店キャトルエピスのパティシエ藁科雅喜さん、岳南木工の本多秀一郎さんと奥様、建築デザイナーの栗田正光さんが参加されました。会場は、カストル美術館からほど近い、旧市街にある美術学校の校庭。9月とはいえ真夏のように暑い1日でした。「宙庵」を会場中心に設営すると、南仏の青い空と旧市街の背景に美しく調和し、

皆さんの注目の的に。そのお茶室を使って在仏日本人による裏千家茶道のお点前も披露されました。おしゃべりなフランス人たちがわいわい楽しんでいた時間が止まり、静寂に包まれました。フランス語で茶道についての説明もありました。静岡の有機のお茶と、キャトルエピスのお菓子を紹介するブースでは、1煎目、2煎目のお茶に合わせ3種のお菓子ーきな粉のサブレ、抹茶のチョコレート、ゆずのギモーヴーを召し上がっていただきました。生産者自らが目の前で淹れるお茶と、繊細なお菓子のコラボレーションにカンヌの皆さんが感嘆し興味を示していました。

フランス語で来場者とコミュニケーションを取り、お茶について説明するなど運営を手伝ってくれたのはエスパス・エクラタンの生徒さんたち。皆さんにとっても、生きたフランス語に触れ日頃の学習を活かす良い経験となったと思います。お茶まつりを企画し、私たちをご招待して下さったカンヌ日仏協会の会長ご夫妻を始め、来場された皆さんに感謝しています。静岡茶の発展や、人と人との交流など、この日の出会いが種をまき必ず今後実をつけると感じました。

(文 静岡日仏協会事務局長 山本ひとみ)

